

まちのキーパーソンに聞く

わたし と 下丸子

下丸子でさまざまな活動を行う5名のキーパーソンに、その取り組みの内容やまちへの思いをインタビュー。学校の運営やレストランの経営、イベントの企画などなど、さまざまなまちとの関わり方から、下丸子の魅力と可能性を探ります！



下丸子DATA

東京都大田区の西側に位置する下丸子は、東急多摩川線が走り、駅周辺には約2万人が暮らしている。戦後は日本を代表する大企業の工場が軒を連ね、ものづくりのまちとして発展。現在でも中小規模の町工場が数多く立ち並ぶほか、多摩川が流れる豊かな自然環境も魅力のひとつ。

スポーツを通じた
“ひとづくり”

目の前の生徒に向き合いながら
その先にあるまちを変えていく

「子どもたちが生き活きとサッカーをできる環境をつくりたい」との思いから、2012年に当団体の代表がサッカースクールを立ち上げ、今ではチアダンスやヨガ、かけっこに、英語で指導を行う運動教室など、6つのスクールを運営するまでになりました。会員が増えていく中で、私たちの存在意義を改めて考えてみると、それは“人を介して間接的にまちをつくる”ということだと気づいたんです。そこからは「ひとづくり、まちづくり」をコンセプトに、目の前の生徒はもちろん、その先の地域も意識しながら活動しています。より良い環境をつくるための手段はスポーツという枠組みだけにとどまりません。今後は芸術・文化的な分野も視野に入れながら、地域と向き合っていきたいですね。



佐藤 秀樹

Key
Person
01

ベアーズ

総合型地域スポーツクラブ「NPO法人ベアーズ」の事務局長。各種スクールや教室の運営・指導を行う。「シン下丸子プロジェクト」実行委員会立ち上げメンバー。



食を通じたつながりで感じる
下丸子の人々のぬくもり

「CHAINON lien」という屋号は、フランス語で「幸せの連鎖」と「ご縁・絆」というふたつの言葉を掛け合わせたもの。そんな名前を付けたのは、私自身、人のご縁で今があると感じているからなんです。「hatome」（P.6参照）への出店も、料理人を目指して飲食店を転々としていたときに知人に紹介されたことがきっかけだし、その後たくさんのお客さんとお話したことで、下丸子の人の温かさを日々感じています。私にとって料理とは、人に喜んでもらうための手段。「おいしかったよ」と言ってもらえたら、力をもらえるし、やりがいにもつながる。地域の人たちの暮らしの一部になれるように、これからも食を通じた幸せの連鎖をどんどん広げていきたいと思っています。



幸せの連鎖と
ご縁が生まれる店



馬場 翔子

Key
Person
02

シェノンリアン

地元・滋賀のレストランで修行後、2017年に上京。雑誌やテレビ番組のメニュー監修などに携わったあと、2022年から「hatome」に出店し、ランチボックスや惣菜、スイーツなどを提供する。

つくってないけど、
つくってます！



山本章子

Key Person
03

くりらぼ多摩川運営委員会
(おたクリエイティブタウンセンター)

「くりらぼ多摩川」工場長。体験教室等を行う
くりらぼ多摩川の管理・運営やおたオープン
ファクトリー (P.6参照) の企画・運営を行う。

地域のモノと人を循環させて
ものづくりの文化を後押し

2013年にオープンした「くりらぼ多摩川」では、「SCRAP (工場廃材)」の量り売りや、日替わりで運営を行う「くりらぼメイト」による自由工作教室、工場見学ツアーなどの活動を行っています。ここでは、ものづくりを通して何かにチャレンジしたい人が集まる拠点。工場長として、人と人、モノと人をつなげ、さまざまな人が楽しめる場をつくっているんです。廃材の提供や工場見学にも快く協力してくれるのも、お互いの存在をリスペクトし、みんなでひとつのものをつくりあげる「仲間まわし」の文化が根づいているからこそ。まさに、職人さんの心意気。この場所でも様な世代や職業の人が交わり、挑戦を応援し合い、ものづくりの文化が広がってほしいですね。



まちに若い息吹を吹き込み
新しい景観をつくる

下丸子の古き良き風景を守りながらまちを活性化させていくためには、若い世代が参加できる場が必要だと思い、2023年に立ち上げたのが「シン下丸子プロジェクト」です。商店街を開放し、チョークで道路にペインティングをしたり、キャンドルを灯したり、これまでに2回のイベントを開催しました。モットーは「とりあえずやってみる」。最初は右も左もわからない手探り状態でしたが、いろいろな人たちの意見を聞きながら形にしてきました。受け入れてもらったのも、不動産屋として日頃から地域と関係性を築いてきたからこそ。これからも若者からお年寄りまで多様な世代が参加できる、新しい日常風景をつくっていききたいですね。



地域を巻き込む、
「シン下丸子プロジェクト」



廣元 塔貴

Key Person
04

ミノラスパートナーズ

不動産会社「ミノラスパートナーズ」を営みながら、「シン下丸子プロジェクト」実行委員会を立ち上げ、イベントの企画・運営を行う。下丸子商店会理事・下丸子3丁目町会理事。

みんながやりたいことをやって
生まれる“下丸子らしさ”

私は「街ブラ」をよくするのですが、やっぱり歩いていて楽しいのは、「盛り場」があるまち。住宅街の中に昔ながらの個人店が点在する下丸子にも、同じような匂いを感じています。「カフェズー」は、そんな下丸子の風景を少しでも彩れたらと思って始めたお店で、昔から好きだった図鑑を中心にした本屋と併設のカフェ、2階はオフィス兼住宅というスタイル。気負わず、自分が楽しいと思える活動が少しずつ増えていけば、まちは変わっていくと思うんです。たとえば、日常的に屋台が出ていたりイベントが開催されていたりすると、面白いですよね。地域のお店や活動を知るきっかけにもなるし、つながりも生まれる。そんなチャンスがあれば、私もぜひ協力したいと思っています。



鎌田 成徳

Key Person
05

カフェズー

「ZU WORKS」代表。テレビ局での勤務を経て、2022年に地元・下丸子で「CAFÉ ZU」をオープン。店内には図鑑を中心に1,000冊以上の書籍が並ぶ。現在「CAFÉ ZU」は不定期で営業。

“図鑑カフェ”で
歩いて楽しいまちづくり